

| 候補者政策比較表           |                                  |   |  |
|--------------------|----------------------------------|---|--|
|                    |                                  | 立候補予定者  |  |
| 候補者                | 氏名                               | 保坂展人(ほさかのぶと)氏   | 三井美穂子(みついまほこ)氏   |
|                    | 政党                               | -   | -  |
|                    | URL                              | <a href="https://www.hosaka.gr.jp/index.html">https://www.hosaka.gr.jp/index.html</a>   | <a href="https://www.mitsuihoko.jp/">https://www.mitsuihoko.jp/</a>  |
|                    | 現職業                              | 現職区長  | 区議会議員  |
| 地域の目指す将来像・地域のありたい姿 |                                  | 世田谷区は2015年に「子ども・子育て応援都市宣言」をしています。子どもにやさしく、子育てに温かい地域とは、高齢者が大切にされ、少数者が排除されない多様性を包摂するまちです。災害に強くしなやかな修復力を高めるためにも、コミュニティを大切に、みどりのグリーンインフラを進めます。  | 子どもたちは夢と希望を持って育つ世田谷。日本をこれまで支えてくださった高齢の方々には尊厳が守られ安心して暮らせる世田谷。みどりが多く、ゆとりある街並み、個性豊かな商店街、賑わいのあるまち、それぞれの地域に合った魅力をさらに向上させ、様々な年代の方々が生き生きと暮らしている笑顔あふれる世田谷にしたい。   |
| 討論会<br>争点          | 今後優先的に取り組みたい課題3つ                 | <b>「子ども・若者応援」</b><br>23区初の児童相談所を開設して子どもの生命を守り、新たな時代にふさわしい「学びの転換」をめざす教育改革の実現。若者支援の拡充。  | <b>健康No1元氣あふれる区民に！</b><br>スポーツ(大学などと連携し場の拡充)、健康づくり(楽しく続けられるウォーキング、食育)、女性の健康(健康教育、精度の高い子宮頸がん検診の導入)、介護予防(フレイルチェック)介護(先進的技法ユマニチュード)。  |
|                    |                                  | <b>「地域福祉の世田谷モデル」</b><br>27カ所の「福祉の相談窓口」と梅丘病院跡地の「うめとびあ」をつなぐ地域福祉ネットワークで、高齢福祉・障がい福祉に取り組む。   | <b>子育てNo1 輝く笑顔の子どもたちに！</b><br>待機児童解消(潜在保育士の活躍、連携園の増設)、在宅子育て支援(集いの場・一時預かりの場の拡充)、学童保育大規模化への対応(学校スペースの更なる開放)教育の充実(英語、プログラミング教育、ネットリテラシー教育)児童虐待予防(妊娠期間面接、乳幼児家庭訪問の徹底。若者の子育て体験)。   |
|                    |                                  | <b>「災害対策とグリーンインフラ」</b><br>防災塾でつくられた地区防災計画の周知と更新。豪雨対策とみどり政策を併せ持つグリーンインフラを区民と共に。  | <b>安心・安全、住みたい街No1 魅力あふれる街に！</b><br>危機管理体制の強化(危機管理の専門家を任命)、防災対策(住宅の耐震化・耐震シェルターの設置促進、豪雨災害対策、乳児用液体ミルクの備蓄など乳幼児対応の強化)、防犯・交通安全(特殊詐欺対策強化、自転車の安全対策)街づくり(道路ネットワーク整備、無電柱化、ユニバーサルデザインの街づくり、開かずの踏切解消、次世代に向けた更なる賑わいの創出)、環境(みどりの保全・創出)成長(企業誘致で職住近接)。           |
| 政策<br>比較           | 子育てのしやすい自治体について                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●待機児童の解消</li> <li>●「子どもの近くで働くコワーク」をさらに増やし、児童館や子育て広場を増やす。</li> <li>●妊娠前から就学前までの子育てを支援するネウボラチームがバックアップして「子ども・子育て応援都市」としての都市文化の整備。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●人によって「子育てのしやすさ」は異なるため、多世代同居や地域の助け合い、区内の事業者・事業所と協力した職住近接等様々なニーズに応え、「世田谷らしい」子育てのしやすさの創設。</li> <li>●低年齢児を対象とする施設の整備と3歳以上の受け入れができる認可保育園の整備、連携園の増設。</li> <li>●働き方に対応した預け先の整備</li> <li>●在宅子育て支援</li> </ul>     |
|                    | 学童保育について<br>(バンク状態と言われていることについて) | <ul style="list-style-type: none"> <li>●区内25館の児童館ネットワークや、区内3カ所の青少年交流センター等を更に活用していく。</li> <li>●他の公共施設を開放する仕組みをつくる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●学童クラブが大規模化し、子どもがのびのび過ごせる場所ではなくなりつつあり、その対応策として、指導員の配置の充実及び学童用の活動スペースの確保。</li> <li>●放課後の子どもたちが居心地よく、自分らしく過ごせる環境を学校施設の中に確保する。</li> <li>●放課後の居場所として、学校以外の様々な選択肢を可能とする。</li> </ul>                            |
|                    | 保育士や学校教員の労働環境について                | <ul style="list-style-type: none"> <li>●保育士の配置増、スタッフ増。</li> <li>●学校行事やプログラムの見直し。</li> <li>●「地域運営」の力で仕事、役割の分散。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●保育士の方の処遇改善、人数の確保。</li> <li>●住宅確保や区としての処遇改善の継続。</li> <li>●潜在保育士への働きかけ。</li> <li>●保護者との連絡や事務作業で、ICT等を活用して授業以外の校務による教員の負担をできるだけ減らす。</li> <li>●法律や福祉などの専門家チームの活用。</li> <li>●幼稚園の先生についても処遇改善などを図る。</li> </ul> |
|                    | 子育ての情報共有について                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「情報不足」と対になって「情報過多」も問題を生じさせている。</li> <li>●ネウボラの活動や保育園、学校等が門戸を開いて生の情報を得ることが出来る場を作る。</li> <li>●「子育てアプリ」の活用</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>●ホームページや子育て応援アプリで情報発信をしているが、あまり浸透していないため、子育てママやパパの目線で情報提供できる媒体の創設。</li> <li>●子育て支援団体、子育てと一緒に楽しむグループの周知。</li> <li>●子育てひろばにコンシェルジュの役割をもっと発揮できる環境をつくる。</li> </ul>  |

|      |              |  |   |
|------|--------------|--|---|
| 政策比較 | 医療・福祉について    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●世田谷区の平均寿命は全国でもトップクラスであるが「健康寿命」の伸びが少ない。</li> <li>●健康づくりのための活動を支援する。</li> <li>●「福祉の相談窓口」を通して病気や障がいが重度化する前に専門治療につなぐ。</li> <li>●保健、医療、福祉の拠点の「うめとびあ」の「認知症在宅生活サポートセンター」の活用。</li> <li>●高齢者施設の充実。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域包括ケア、地域間連携、そして最も重要なのが予防の徹底。</li> <li>●介護施設の整備と人材確保。処遇改善、「介護サポーター」を育成、活用する。</li> <li>●地域包括ケアの構築。特に在宅での認知症介護のあり方の見直し。</li> <li>●「ユマニチュード」といった先進技法を使い、介護する側・される側の負担を軽減するため、一般区民に知識を普及していく。</li> </ul>  |
|      | 東京オリンピックについて | <ul style="list-style-type: none"> <li>●中学生をポर्टランドに派遣するキャリア教育交流。</li> <li>●区民に根ざした日米交流を基軸とした国際交流の機運を積極的に構築していく。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●観光業、健康やスポーツなどのレクリエーション業(スポーツ交流)などの産業育成を図る。</li> <li>●商店街や町会・自治会、大学、企業等と力を合わせて盛り上げ、世田谷の魅力を全国に発信し、交流の輪を広げていく。</li> <li>●インバウンド需要の取込みに向けた情報発信や接客体制(多言語対応など)構築。</li> <li>●道路の無電柱化、公共施設や道路のユニバーサルデザイン化。</li> </ul>                                 |
|      | 区外への住民流出について | <ul style="list-style-type: none"> <li>●子育て世代の流出理由としての「住宅問題」の解決</li> <li>●賃貸住宅のオーナーに対して「ファミリー型住宅」を奨励するインセンティブの創生。</li> <li>●幼児教育と切れ目のない学校教育で質の高い教育改革を推進を進める。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●保育サービスの環境と、住宅・通勤などの住環境の改善。</li> <li>●子どもたちの教育環境。</li> <li>●世田谷の魅力を維持、向上させ、若い人たちに選ばれるまちにする。</li> <li>●農地をはじめ、みどりの保全に本格的に取り組む。そして、商店街振興など、街の賑わいをつくり、秩序ある安全・安心な街をつくる。</li> </ul>   |
|      | 働く環境について     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●現在大きく伸びているIT業界の担い手は、20代や30代だが、地域コミュニティの重要な役割を担っているのは65歳以上である。</li> <li>●全世代型の交流が生まれるコミュニティがあまりないため、今後「多世代をつなぐ創業」を構築していく。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●地場の企業を通じて「職住近接」の働きやすい職場を増やしていく。</li> <li>●金融機関や経営支援コーディネーター等専門家と連携して、世田谷区内の中小企業の経営支援、事業承継の支援を進める。</li> <li>●産業団体、大学、金融機関等と連携し、世田谷区内の起業・創業を支援するとともに、ソーシャルビジネス、地域ビジネスの創出を応援する。</li> <li>●「三茶お仕事カフェ」の運営を強化する。</li> <li>●世田谷らしい住環境の整備。</li> </ul> |
|      | 女性活躍について     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●子供が待機児童になったために育児休業明けに復職出来ない場合、辞表を出さなければならない企業文化を変える。</li> <li>●「男女共同参画」の実現のために、性的役割分業の見直し。</li> <li>●子育てへの男性参加。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●区政に女性の視点をもっと取り入れる。</li> <li>●保育と働き方の見直し。</li> <li>●女性特有の健康にも目を配った教育や検診を充実させる。</li> <li>●災害時の避難所で、液体ミルクの備蓄など、女性が避難すること・暮らすことを想定した取り組みを進める。</li> <li>●区の審議会や委員会で男女のバランスをとった人選をさらに進める。</li> </ul>  |